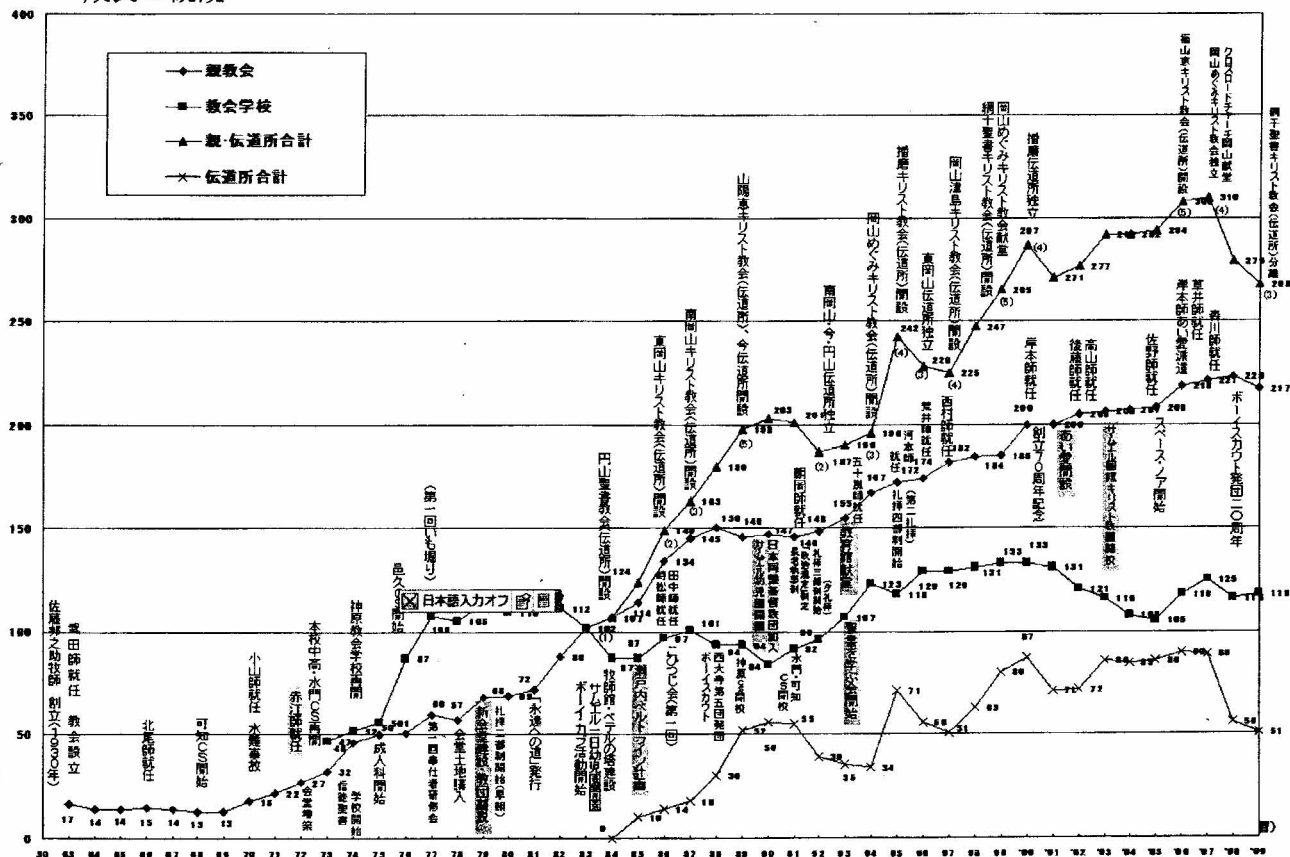


A 「小規模教会での牧会伝道」

1. 教会のサイズ（サイズ別に分析する教会形成の方策：マッキントッシュ著 参）

	小規模教会	中規模教会	大規模教会
礼拝出席者数	15~200人・80%	201~400人・10%	401人以上10%

2. 西大寺教会の成長グラフ——小規模教会から中規模教会へ成長の概観



3. 小規模教会の志向性（特徴）と対策

全員と知り合い、みんなで一緒に食事をする、大きな家族——人間関係優先

（一部の人たちと……、プログラムのために……、成長している拡大家族）中規模教会

詩 小さな教会（賛美歌 村の小さき教会）

大きな世界にあって、小さな教会には親密さがある。

変化の早い世界にあって、小さな教会には変わる事のない確かさがある。

お金のかかる世界にあって、小さな教会には質素さがある。

複雑な世界にあって、小さな世界にはわかりやすさがある。

合理的な世界にあって、小さな教会には情け深さがある。

流動的な世界にあって、小さな教会は確かな錨である。

匿名の世界にあって、小さな教会は名前呼び合う。（前掲書 27 ページ）

①牧師としてわたしの心がけたこと

- ・ 水難事故の痛みを共有する
- ・ 若くても、群れのお父さんとしての自覚を持つ。
- ・ 教会のみんなを温かく愛する。
- ・ みんなの町と教会を愛している。
- ・ 近所の人と仲良くなる。
- ・ 教会員の家族の名前を覚え、喜びと悲しみを共有する。
- ・ 牧師家庭を解放して、若者、若い家族、老人、求道者を食事に招く。
- ・ だれに対しても分け隔てなく接する。
- ・ 牧師自ら個人伝道で刈り入れをする。

佐竹十喜雄著「この岩の上に」***開拓から百人教会へ*** 参

A 謙遜型牧師 B 率先型牧師 C 正義型牧師 D お世話型牧師

わたしはA、B、D型を優先しつつ、ときにCも大切にしました。

事例A 庶民性、笑顔、挨拶、言葉がけ、人の言葉に耳を傾ける

参考書 (カーネギー 人を動かす、マーレー 謙遜)

B 「私にならう者となってください」(ピリピ3:17、Iコリント4:16)

D 家族の悩み・アル中のお父さん、火事、からだと心の病気、老人、

C 結婚問題、差別問題、教理問題

要するに頼もしいお父ちゃんであり、面倒見の良い親分であり、月光仮面であり、おもしろくて一緒にいたい人であり、謙遜な祈りの人を目指した。

②教会員の教会の自己像

- ・ 自分は大切にされていると感じている。
愛されて愛を知る
- ・ 自分の教会に対して良い感情を持つようになる。
教会の本質を学ぶ。教会は建物ではなく、神の民の群れであるとの誇り。
- ・ 自分は教会にとって必要とされていると感じている。
自分も神さまの教会のお役に立ちたいと願う。
- ・ 他の人に自分の教会に来て欲しいと思っている。
家族や友人を誘ってくる。

B「小規模教会から中規模教会を目指す歩み」

I 長屋の教会から新会堂が出来るまで(20人礼拝~60人礼拝) 1963~1979

1. 強いられたビジョン

転任早々の新任牧師である私に、数人の青年信徒が千人教会ビジョンの共有を求めてきた。これが幸いした。ビジョンは、本来神からのものであるから、自然に教会全体のビジョンとして受け容れられていった。コミュニティーチャーチ(市民教会)構想の始まりであった。

私は、多くの牧師が経験する、教会の成長の障害物である「小教会イメージ」と戦う必要がなかった。私がしたことは、聖書信仰の確認と、神の御心は、教会の成長を願っていることを語ることで充分であった。つまり、小規模教会のときから、大規模教会を志向している教会に遣わされたのである。

2. 備えられた成長プログラム

赴任の翌年の1943年から、西日本総動員伝道が始まった。三年計画であった。ここから、信徒の訓練と動員する戦略が開始され、以下のように進展していった。

「良い証人」が教会教育成人科——主日、水、木 成人科

「大いなる救い」が個人伝道——「永遠への道」

「祈りの細胞」がスモールグループ——ファミリー

3. 新しい人を登用する

①教会政治面

信仰歴の長い、年配の経験のある役員の下に、若い青年クリスチャンを配属する。伝統と権威を尊重しつつ、能力のある新しい後継者を育てる。

②伝道面

教会学校の分校を四カ所に展開し、本校と共に子ども伝道と信徒の子女の育成に努める。若いカップルが家庭を解放して活躍。長い信仰生活者の家庭と地域に若い信徒を派遣する。

③事務・総務

週報や、印刷物などは青年会にゆだねる。

4. 新しい施設を備える

長屋の借家に増築をする。家主の了解を得て、礼拝の場所を広げる。

信徒の大工の心得のある方と牧師が工事をして、信徒が努める建築関係の会社の資材を購入して、安価で備えられた。

5. 伝道の機運をあげる

①思い切った大伝道会を企画

水難事故以来5年間の特別伝道会自粛の後、いきなり市民会館（800人ホール）で「西大寺愛の集い」（1974年）を計画。本田弘慈師をお迎えした。

②エクスプロ74に参加（8人）実現している千人教会を見て、将来を夢見る。

6. 300人会堂準備（1975年～1979年）

50人礼拝のときに会堂建設献金を募り初め、300人礼拝に備えて土地探しをはじめ。300人規模の教会組織を模索し、千人教会の長期ビジョンをテーマに自由討議をした。

7. 会堂建設効果

1978年に830坪の土地を購入し、翌1979年に300人収容可能な現会堂を建設。これにより教会員の自信獲得効果、対社会的信用を得る効果を得ることが出来た。後に述べる福音伝道の効果的プログラムが可能になり、飛躍的に拡大した。

むすび

「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい」ローマ 12:15

「わたしは彼らにおりあなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。」ヨハネ 17:23